



令和7年度
学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立山崎小学校

学校関係者評価委員会

委員長	廣田	隆之
委員	富永	順子
委員	神田	愛弓
委員	松原	靖代
委員	新	愛
委員	ペーヌ	志穂

1. 令和7年度 学校関係者評価アンケートの集計結果概要

令和7年11月7日(金)～令和6年11月20日(木) アンケート実施

- ・保護者「すぐー」にて児童数362名で配信 回収203枚 回収率56%
- ・地域配布数 30枚 回収14枚 回収率46.7%
- ・児童在籍数 111人 実施99人 実施率89%

回答は、A：とても思う B：思う C：あまり思わない D：思わない E：分からないと分類する。

以下アンケート結果分析についてA+B評価（肯定的評価）が70%を超えている項目は、概ね良好とした。

2. 保護者各項目の分析について

1. 学習指導について

(1)	本校の教員は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。
(2)	本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。
(3)	本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。
(4)	本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。

(1) A+B 評価（以下肯定的評価）が86.2%で昨年度より6.2ポイント改善しており良好な結果である。本校は子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。

(2) 肯定的評価が73.9%で昨年度より13.9ポイント改善しており概ね良好な結果である。本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫した学習指導をしている。

(3) 肯定的評価が87.7%で良好な結果である。本校は、子どもが考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。

(4) 肯定的評価が82.7%であり概ね良好な結果である。本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。

2. 生活指導について

(1)	本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。
(2)	本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。

(1) 肯定的評価が83.3%で良好な結果である。学校の過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。

(2) 肯定的評価が83.2%良好な結果である。教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。

3. 学校行事（運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事）について

(1)	学校行事は、子どもにとって楽しい。
(2)	学校行事は、子どもにとって達成感がある。
(3)	本校は、子どもの意欲を大切にしている。

(1)～(3)全ての項目において肯定的評価が90%を超えており大変良好な結果である。学校行事は、子どもにとって楽しく、達成感がある。本校は子どもの意欲を大切にしている。

4. キャリア教育について

(1)	本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。
(2)	本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。

- (1) 肯定的評価が69.9%、E評価が19.2% (2) 肯定的評価が58.1%、E評価が30%で低評価である。本校ではキャリアパスポート、出前授業等の活用をしているものの保護者の理解度は低い。

5. 教職員について

(1)	本校は、丁寧に指導している。
(2)	本校は、子どものことを相談しやすい。

- (1) (2) とともに肯定的評価が90%以上で大変良好な結果である。本校は、丁寧に指導し、子どものことを相談しやすい。

6. 全般について

(1)	本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。
(2)	子どもは家庭で自主的に学習をしている。
(3)	本校の教育活動に満足している。
(4)	子どもは、体力向上や健康な生活に取り組んでいる。

- (1) 肯定的評価が93.6%で大変良好な結果である。本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。
(2) 肯定的評価が56.7%で低評価である。家庭学習の習慣付けに課題がある。
(3) 肯定的評価が87.6%で良好な結果である。保護者は本校の教育活動に満足している。
(4) 肯定的評価が84.2%で良好な結果である。子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。

7. 基本的な生活習慣・健康な体について

(1)	お子さんは、自分からあいさつをしている
(2)	お子さんは、話している人を見て話を聞いている。
(3)	お子さんは、毎晩決まった時刻に寝る等、睡眠をしっかりとっている。
(4)	お子さんは、好き嫌いなく食べようとしている。
(5)	お子さんは、進んで外遊びをしている。

- (1) 肯定的評価が71.4%で概ね良好な結果である。本校の子どもたちは自分からあいさつをしている。
(2) 肯定的評価が80.3%で良好な結果である。本校の子どもたちは、話している人を見て話をきいている。
(3) 肯定的評価が82.8%で昨年度より18.8ポイント改善しており良好な結果である。本校の子どもたちは睡眠をしっかりとっている。
(4) 肯定的評価が66.5%で昨年度より9.5ポイント悪化し、食べ物の好き嫌いは低評価である。
(5) 肯定的評価が69%で昨年度より10ポイント改善している。健康の保持・増進を考えると改善を望む。

8. 特色ある教育活動について

(1)	舟形交流学习は、子どもたちの成長に役立っている。
(2)	紙すき体験を、子どもたちは楽しんでいる。
(3)	山崎太鼓は、子どもたちの成長に役立っている。

(1) 肯定的評価が88.7%、(2) 肯定的評価が95.6%、(3) 肯定的評価が84.7%で、山崎小学校の特色ある教育活動「舟形交流」「紙すき」「山崎太鼓」の山崎三本柱の評価は高い

9. 言葉に関する環境について

(1)	子どもたちは、学校や家庭で読書に親しんでいる。
(2)	子どもたちは、自分の思いや考えを話したり書いたりして伝えている。

(1) 肯定的評価が61.5%で昨年度より9.5ポイント低下しており評価は低い。家庭での読書の習慣づけを望む。

(2) 肯定的評価が82.2%で良好な結果である。本校の子どもたちは、自分の思いや考えを話したり、書いたりして伝えている。

3. 地域各項目の分析

1. 生活指導について

(1)	通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。
-----	-----------------------------

(1) 肯定的評価が78.5%で昨年度より16.5ポイント低下しているものの概ね良好な結果である。通学している子どもたちは、交通ルールを守っている。

2. 学校行事について

(1)	学校行事の内容は充実している。
(2)	事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある。

(1) 肯定的評価が昨年度同様100%で大変良好な結果である。学校行事の内容は、充実している。

(2) 肯定的評価が92.9%で大変良好な結果である。学校行事について事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある。

3. 学校からの情報提供について

(1)	学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。
(2)	「学び舎」の活動について、情報が提供されている。
(3)	学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる。
(4)	学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。

(1) 肯定的評価が92.9%で大変良好な結果である。学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。

(2) 肯定的評価が71.4%で概ね良好な結果である。「学び舎」活動について、情報が提供されている。

(3) 土曜授業で実施していた学校公開等が減ったため肯定的評価が85.7%で昨年度より9.3ポイント低下しているものの良好な結果である。学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる。

- (4) 肯定的評価が 85.7%で 5.7 ポイント改善しており良好な結果である。学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。

4. 学校運営について

(1)	学校の重点目標が明確である。
(2)	地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している。

- (1) 肯定的評価が 92.8%で大変良好な結果である。学校の重点目標が明確である。
 (2) 肯定的評価が 78.6%で概ね良好な結果である。地域の意見に対して、学校は丁寧に説明・対応している

5. 地域との連携について

(1)	地域の人や施設を教育活動に活かしている。
(2)	学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。
(3)	学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。

- (1) 肯定的評価が 78.6%で昨年度より 6.4 ポイント低下しているものの概ね良好な結果である。地域の人や施設を教育活動に活かしている。
 (2) 肯定的評価が 50%で低評価である。E 評価が 35.7%である。学校協議会・合同学校協議会は、コロナ禍以降開催されておらず、低評価でもやむなしと考える。
 (3) 肯定的評価が 71.4%で概ね良好な結果である。学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。

6. 学校の安全性について

(1)	学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。
(2)	学校は、安全性を高めようと地域と協力している。

- (1) 肯定的評価が 100%で大変良好な結果である。学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。
 (2) 肯定的評価が 92.9%で大変良好な結果である。学校は、安全を高めようと地域と協力している。

4. 児童各項目の分析

1. 学習について

(1)	学ぶことが楽しい。
(2)	先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。
(3)	先生は、黒板の書き方やプリントなど工夫している。
(4)	授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。
(5)	先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。

- (1) 肯定的評価が 87.9%で良好な結果である。本校児童は学ぶことが楽しいと感じている。
 (2) 肯定的評価が 93.9%で大変良好な結果である。本校教員は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。

- (3) 肯定的評価が92%で大変良好な結果である。本校教員は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。
- (4) 肯定的評価95.9%で大変良好な結果である。授業では、話し合ったり発表し合ったりする機会がある。
- (5) 肯定的評価が96%で大変良好な結果ある。本校教員は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。

2. 生活指導について

(1)	私は、学校のきまりを守って行動している。
(2)	学校のきまりを守らない児童に先生は注意している。
(3)	先生に注意されたことは、理解できる。

- (1) 肯定的評価が93.8%で大変良好な結果である。本校児童は、学校の決まりを守って、行動している。
- (2) 肯定的評価が91.9%で大変良好な結果である。学校の決まりを守らない児童に本校教員は注意している。
- (3) 肯定的評価が93.9%で大変良好な結果である。本校児童は、先生に注意されたことを理解している。

3. 学校行事について

(1)	学校行事は楽しい。
(2)	学校行事は達成感がある。
(3)	先生は、児童の意欲を大切にしている。

- (1) 肯定的評価が97.9%で大変良好な結果である。ほとんどの児童が学校行事を楽しんでいる。
- (2) 肯定的評価が94.9%で大変良好な結果である。ほとんどの児童が学校行事に達成感がある。
- (3) 肯定的評価93.9%で大変良好な結果である。本校教員は、児童の意欲を大切にしている。

4. キャリア教育について

(1)	自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。
(2)	目標をもち、その実現に向けて努力している。

- (1) 肯定的評価が87.9%で良好な結果である。自分の生き方や将来のことについて考える授業がある。
- (2) 肯定的評価が90.9%で大変良好な結果ある。本校児童は目標をもち、その実現に向けて努力をしている。

5. 先生について

(1)	先生たちは、ていねいに指導してくれる。
(2)	先生たちに相談できる。

- (1) 肯定的評価が97%で大変良好な結果である。本校教員はていねいに指導している。
- (2) 肯定的評価が81.8%で良好な結果である。本校児童は、教員に相談できている。

6. 全般について

(1)	学校生活は楽しい。
(2)	学校が好き。
(3)	学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。

(1) 肯定的評価が97% (2) 肯定的評価が91.9%で大変良好な結果である。本校児童のほとんどが学校生活は楽しいと感じ、学校が好きと回答しており好ましい結果である。

(3) 肯定的評価が68.7%で昨年度より3.7ポイント改善されたがまだまだ低評価である。中学校と連携をはかり交流機会の増加を望む。

7. 基本的な生活習慣・健康な体について

(1)	私は、自分からあいさつをしている。
(2)	私は、話している人を見て話を聞いている。
(3)	私は、毎晩決まった時刻に寝る等、睡眠をしっかりとしている。
(4)	私は、好き嫌いなく食べようとしている。
(5)	私は、進んで外遊びをしている。

(1) 肯定的評価が88.9%で良好な結果である。本校児童は、自分からあいさつをしている。

(2) 肯定的評価が94.9%で大変良好な結果である。本校児童は話している人を見て話を聞いている。

(3) 肯定的評価が69.7%で5.7ポイント改善しているものの低評価である。3割弱の児童は毎晩決まった時刻に寝る等、睡眠をしっかりとしていない。家庭での習慣づけを望む。

(4) 肯定的評価が67.7%で昨年度より8.3ポイント低下しており低評価である。食の改善を望む。

(5) 肯定的評価が57.6%で低評価である。健康の保持・増進を考えると改善を望む。

8. 特色ある教育活動について

(1)	舟形交流学習は、自分の成長に役立っている。
(2)	紙すき体験を楽しんでいる。
(3)	山崎太鼓の活動は、自分の成長に役立っている。

(1) 肯定的評価が96.9%で大変良好な結果である。舟形交流学習は本校児童の成長に役立っている。

(2) 肯定的評価が95%で良好な結果である。本校児童は、紙すき体験を楽しんでいる。

(3) 肯定的評価が73.8%で概ね良好な結果である。6年生のA+B評価は97.8%で良好な結果である。山崎太鼓の活動は成長に役立っている。5年生のA+B評価は52.8%。E評価は37.7%であった。5年生の山崎太鼓に対する当事者意識は、実際に活動が始まっていないため例年E評価が多い。しかし6年生になると95%以上の児童が肯定的評価に変容している。

9. 言葉に関する環境について

(1)	私は、学校や家庭で読書に親しんでいる。
(2)	私は、自分の思いや考えを話したり、書いたりして伝えている。

(1) 肯定的評価が64.7%で低評価である。6割強の本校児童は、学校や家庭で読書に親しんでいる。

(2) 肯定的評価88.9%で良好な結果である。本校児童は、自分の思いや考えを話したり、書いたりして伝えている。

5. 総評

今年度のアンケート調査は、保護者・地域・児童とも良好な結果である。保護者アンケート 27 項目中、否定的評価が 30%以上は《6(2)、7(4)、7(5)、9(1)》の 4 項目で家庭教育に関するものである。児童アンケート 28 項目中否定的評価が 30%以上は《7(4)、7(5)、9(1)》の 3 項目で、やはり家庭教育に関することである。地域アンケート 7 項目中否定的評価が 30%以上の項目はない。

保護者、児童ともに学校行事・教職員についての評価は非常に高い。その他の項目でも保護者と児童の回答で同じ傾向が見られた。アンケート結果は、児童・保護者・地域が山崎小学校の教育活動に満足していることを示している。

コロナ禍以降、教育活動等に様々な変化があった。以下、『学校だより 10 月号』本澤副校長の言葉からの引用である。本校では、昨年度から次の 4 点を大きく変更した。①毎月の土曜日授業をなくして、年間 3 回の土曜日授業とした。②通知表を渡す回数を 3 回から 2 回にした。③舟形交流が 3 校交流から、2 校交流となった。④水泳指導を 1 学期に集中して行うこととした。これらの変更は本校の教育の質を高めるため、子どもたちの指導に生かすために、立てた方策である。一方で、これらの変更は、教職員の働き方にも良い効果を与えることも狙っている。学校の教育活動は、教職員が支えている。教職員が日々、心身ともに健康であること、笑顔であることが重要である。

本校は以上のような方策により、保護者からの理解もあり、地域からの信頼も厚い。引き続き、授業、学校行事等、児童が楽しい学校生活を送り充実した日々が過ごせるよう学校運営をすることを望む。

なお、令和 8 年度は学校を取り巻く組織の再編が行われ学校関係者評価委員会としての報告書作成は今回で最後となる。

6. 参考

1. 地域運営学校

世田谷区立全小中学校が指定されている。学校と地域の連携をより一層充実させ、地域と共に子どもを育てる教育を推進し、地域防災や地域行事など、学校・家庭・地域の連携・協働による取組みを一層充実するなど、地域コミュニティの核としての学校づくりをすることを目的としている。

2. 学校運営委員会

地域運営学校では、地域の方や保護者、学識経験者、卒業生からなる学校運営委員会を組織し、地域に根ざした学校づくりをねらいとした学校運営をすることを目的としている。

3. 世田谷杜の学び舎

世田谷 9 年教育の柱のひとつで近隣の世田谷区立小中学校で「学び舎」を構成し、より一体となって地域の教育力と特色を活かして教育活動や学校運営を進めることを目的としている。本校は世田谷中学校・城山小学校・若林小学校で「世田谷杜の学び舎」を構成している。

4. 学校協議会

学校と家庭・地域並びに関係諸機関と連携と協力を一層強化することを目的として、学校協議会を設置し、地域の協力を得ながら児童・生徒の健全育成、地域防災・防犯、教育活動の充実に取り組んでいる。学校長・副校長・主幹教諭・主任教諭・PTA 会長・PTA 役員・主任児童委員・民生委員・児童委員・青少年委員・保護司・町会長・自治会長等で構成されている。

5. 合同学校協議会

学び舎単位の学校協議会

6. キャリア教育

我が国において「キャリア教育」という文言が公的に登場し、その必要性が提唱されたのは、平成 11 年 12 月、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」においてであった。同審議会は「キャリア教育を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある」とし、さらに「キャリア教育の実施に当たっては家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、学校ごとに目的を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある」と提言している。この答申を受け、キャリア教育に関する調査研究が進められ、平成 14 年 11 月には、国立教育政策研究所生徒指導研究センターが「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」を報告した。同調査研究報告書は、子どもたちの進路・発達をめぐる環境の変化について、数々のデータを基に分析し、「職業観・勤労観の育成が不可欠な『時代』を迎えた」とし、さらに、学校段階における職業的（進路）発達課題について解説するとともに、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」を示した。一方、学校における教育活動が、ともすれば「生きること」や「働くこと」と疎遠になったり、十分な取組が行われてこなかったりしたのではないかとの指摘も踏まえ、同年、文部科学省内に「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」を設置し、平成 16 年 1 月には、その報告書「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために」を発表した。この間、国は、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣、経済財政政策担当大臣の関係 4 閣僚による「若者自立・挑戦戦略会議」が、平成 15 年 6 月に「若者自立・挑戦プラン」を策定し、目指すべき社会として、「若者が自らの可能性を高め、挑戦し、活躍できる夢のある社会」と「生涯にわたり、自立的な能力向上・発揮ができ、やり直しがきく社会」をあげ、政府、地方自治体、教育界、産業界が一体となった取組が必要であるとした。キャリア教育の推進は、その重要な柱として位置付けられた。その後平成 18 年には、内閣官房長官、農林水産大臣、少子化・男女共同参画担当大臣も加え、「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン（改訂）」が策定され、キャリア教育のさらなる充実を図ることとした。